

## 10 ベクトル空間の基と次元

定義 10.1  $V$  ベクトル空間 .  $u_1, \dots, u_m \in V$  が  $V$  を生成するとは 任意の  $v \in V$  が  $u_1, \dots, u_m \in V$  の 1 次結合で書けることを言う .

$V$  が  $\mathbb{R}^2$  のとき  $e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  の二つのベクトルは  $\mathbb{R}^2$  を生成する . どんな 2 次元列ベクトルも  $e_1, e_2$  の 1 次結合で書けているのだから .

### 10.1 ベクトル空間の基

定義 10.2 ベクトル空間  $V$  のベクトルの組  $\{u_1, \dots, u_n\}$  が次の二つの条件を満たすとき ,  $V$  の 基 , または 基底 という .

- (1)  $u_1, \dots, u_n$  は 1 次独立 .
- (2)  $\{u_1, \dots, u_n\}$  は  $V$  を生成 .

定理 10.1 (教科書 p.81, 定理 4.4.1) ベクトル空間  $V$  の基に含まれるベクトルの個数は基のとり方によらず一定 .

証明  $\{u_1, \dots, u_m\}$  と  $\{v_1, \dots, v_n\}$  がどちらも  $V$  の基とする .  $u_i$  はすべて  $v_1, \dots, v_n$  の 1 次結合でかけるので , 定理 9.1 (教科書定理 4.3.1) により ,  $\{u_1, \dots, u_m\}$  の 1 次独立な最大個数 (=  $m$ ) は  $\{v_1, \dots, v_n\}$  の 1 次独立な最大個数 (=  $n$ ) 以下 . よって  $m \leq n$ .  $n, m$  の役割を入れ替えて ,  $n \leq m$ .  $\square$

例 10.1  $\mathbb{R}^3$  の基本ベクトル

$$e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, e_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix},$$

の 3 つは  $\mathbb{R}^3$  の基 .

例 10.2 (教科書 p.82, 例 4)

$\mathbb{R}[x]_3$  では  $\{1, x, x^2, x^3\}$  が基になっている (これらは 1 次独立)

## 10.2 ベクトル空間の次元

定義 10.3 零ベクトルのみからなるベクトル空間を零 (ベクトル) 空間という. ベクトル空間  $V$  の基が有限個のベクトルからなるとき  $V$  を有限次元ベクトル空間と呼び, このとき, 基に属するベクトルの個数 (基のとり方にはよらない) を  $V$  の次元と呼び,  $\dim(V)$  とか  $\dim_{\mathbb{R}}(V)$  と書く.

定理 10.2 (教科書 p.82, 定理 4.4.2)

ベクトル空間  $V$  が有限次元であるための必要十分条件は  $V$  の 1 次独立なベクトルの最大個数が有限であることである.

証明  $V$  を有限次元とする. このとき  $V$  の基は有限個のベクトルからなり, これを  $v_1, \dots, v_n$  と書く. 任意の  $V$  のベクトルはこれらの 1 次結合でかけるので, 任意に  $u_1, \dots, u_{n+1} \in V$  をとると定理 8.3 (教科書定理 4.2.3) により,  $u_1, \dots, u_{n+1} \in V$  は 1 次従属. つまり,  $V$  の 1 次独立なベクトルの最大個数は  $n$ .

逆に  $V$  の 1 次独立なベクトルの最大個数が  $n < \infty$  のとき,  $V$  の 1 次独立なベクトル

$$v_1, \dots, v_n$$

が取れ, 任意の  $V$  のベクトル  $w$  に対して

$$w, v_1, \dots, v_n$$

は  $n+1$  個あるので 1 次従属. 定理 8.2 (教科書定理 4.2.2) により, このとき  $w$  は  $v_1, \dots, v_n$  の 1 次結合で書け,

$$v_1, \dots, v_n$$

は  $V$  の基である. よって  $V$  は有限次元. □

例 10.3 次の解空間の次元と基を一組求めよ

$$W = \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^5; \begin{array}{l} x_1 - 2x_2 + x_3 + 2x_4 + 3x_5 = 0 \\ 2x_1 - 4x_2 + 3x_3 + 3x_4 + 8x_5 = 0 \end{array} \right.$$

解 与式は

$$\begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 & 2 & 3 \\ 2 & -4 & 3 & 3 & 8 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

なので、左辺の行列の簡約形を求める。

$$\begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 & 2 & 3 \\ 2 & -4 & 3 & 3 & 8 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -2 & 1 & 2 & 3 \\ 0 & 0 & 1 & -1 & 2 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} 1 & -2 & 0 & 3 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & -1 & 2 \end{pmatrix}$$

したがって、主成分を含まない列ベクトルに対応する変数を  $x_2 = c_1, x_4 = c_2, x_5 = c_3$  と置くと、 $x_1 = 2c_1 - 3c_2 - c_3, x_3 = c_2 - 2c_3$  つまり

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2c_1 - 3c_2 - c_3 \\ c_1 \\ c_2 - 2c_3 \\ c_2 \\ c_3 \end{pmatrix} = c_1 \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + c_2 \begin{pmatrix} -3 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + c_3 \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

解空間の次元は 3 で、基は

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} -3 \\ 0 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ -1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

の 3 つで作られる (これらは 1 次独立)